

特定非営利活動法人

おokayま人權研究センター・ニュース

発行 センター事務局 2011. 12. 10 第16号

合同研究集会、成功裏に終わる

鈴木准教授の熱演に拍手

11月6日（日）10時から、岡山民生会館で、初の3研究会（「現在」研究会、教育研究会、岡映研究会）合同の研究集会が開かれました。2階のA、B両研究室が満席になる盛況でした。

愛媛から、学生とともに参加して下さった鈴木先生の熱のこもった「若者論」に聴衆は魅了されました。とかく自分のことだけに関心が集中しがちだと思われる若者たちが、決してそうでないこと、若者たちの心の中に潜在している社会的関心をどうやって引き出すか、先生ご自身の教育実践を通しての発言には、大きな説得力がありました。

精密な研究・調査に支えられた手島先生の「岡映国民融合論」、子どもたちに自分自身を見つめさせ、それを言葉にする手だてを与える北村先生の「川柳指導」の教育実践など、いずれも参加者を感動させました。

最後に報告された碓井先生の成熟社会論は、体制変革論から成熟論への転換を説く斬新な問題提起でした。それだけに、報告後の討論も、とりわけ盛り上がりました。

「成熟社会」の後の社会はどのようなものかという質問に対して碓井先生は「成熟には終わりはありません」と解答されました。今回の研究集会の中で、もっとも印象に残るやりとりだったように思われます。

どうなるか心配しながらの初めての試み

でしたが、幸いにも白熱の討議を生み出す研究集会を催すことができ、センター一同大変喜んでおります。

春の読者会と秋の合同研究集会を私たちの行う二大イベントとして、今後定着させていきたいと願っています。会員諸賢のご協力を心からお願いいたします。

自由社公民教科書の問題点

教育研、小出先生報告

11月12日（土）、1時半から小出先生の報告がありました。今問題となっている自由社の中学社会科公民教科書の内容を巡ってでした。

この教科書の狙いとして、「天皇を中心として国民統合を行い、憲法を改正し、日本も正式な軍隊を保持し、自国の権益を守れるような国にしたい」という思いが強くにじみ出しているといえます。

討論の中では、①日本にとって「天皇制」、その「永続」の秘密はどこにあるのか、②日本の権益を守りたいという「愛国心」の問題、③日本の安全をアメリカに委ねている「安保体制」などの問題について、はっきりした見通しを持つ必要がある、といった意見が出されました。

いずれも避けて通れない重大問題でした。（い）